

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 大学の理念である「行学一体・報恩感謝」の精神に則り、人間がこれまでの歴史のなかで築いてきた文化と歴史的遺産を探究し、人間と社会についての洞察を深めることで、人間性にあふれた社会を創造することをめざし、そのために高度な専門職業人および研究者の育成に努めている。宗教学仏教学専攻は、仏教学・禅学・宗教学の3分野の研究を通して人間性を涵養し、現代社会の心の問題に対応できる有為な人材、とくに宗門人の育成に努めている。さらに終末医療に関連する臨床宗教師養成科目を編成し、現代社会における心の不安を取り除く役割を担う人材の積極的な育成を行っている。歴史学専攻は日本史・東洋史・西洋史・イスラム圏史・考古学の5分野の研究を通して世界史的視野を磨き、教育界・文化機関等で貢献できる人材の育成に努めている。英語圏文化専攻は、英語英文学および学際的な地域研究を通して、教育界のみならず、グローバル化した社会で活躍できる国際的な職業人の育成に努めている。日本文化専攻では日本文化の学際的研究、東西文化との交流研究を通して、教育界・文化機関等で日本文化を世界各地に発信できる有為な人材の育成に努めている。以上のように、4専攻すべてにおいて、人材養成・教育研究上の目的やその内容を適切に定め、実施されている。</p> <p>(2) 文学研究科の4専攻は、文学部5学科との連続性を保ちながら、教育・研究活動を行っている。学部5学科は大学の理念に則り、人間の生み出してきた様々な社会・文化を学び考察することを通して社会に貢献できる人材の育成を目的としている。文学研究科はこの目的をさらに発展させ、人間と社会についての洞察を深めながら人間性あふれた社会を創造することを目指す教育を推進している。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文研 「人材の養成・教育研究上の目的」『大学院要項』p.2、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
「愛知学院大学 各学部研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学研究科及び文学研究科の4専攻の人材の養成・教育研究上の目的を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に規定しており、『大学院要領』に内容を明記している。また年度初めのオリエンテーション時に、研究科長・研究科主任が入学者に説明し、さらに各専攻においても専攻の理念・目的及び教育方針等を入学者に伝えている。また、社会一般に対しては、理念・目的を大学ホームページにおいて公開している。</p> <p>(2) 文学研究科及び文学研究科の4専攻の人材の養成・教育研究上の目的を『大学院要項』、大学ホームページに掲載し、学内の教職員、学生、及び学外に対し周知を図っている。また大学院生が編集発行している『文研会紀要』を全国の図書館・大学図書館などに配布し、本研究科の理念と実践を社会的に周知できるよう努めている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研 「人材の養成・教育研究上の目的」『大学院要項』p.2、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
「愛知学院大学 各学部研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf				
愛知学院大学大学院文学研究科文研会〔編〕『愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要』ISSN:13427806				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
1	宗教学仏教学専攻では、本学の建学の精神及び仏教精神に基づいた教育目的実現の一環として「臨床宗教師養成講座」を2017年4月から開講して近年の人生終末期の生き方に関する社会的関心への高まりに応えている。ただし、2021年度はコロナ感染症対策のため、本講座は中止せざるを得なかった。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
文研「臨床宗教師養成講座」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/graduate/letters/religion/index.html	
「臨床宗教師養成講座」『大学院要項』p.127、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-k.pdf	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
2	文学研究科の理念・目的の明示、及び教職員、学生、一般社会への周知において現時点での問題点はない。しかし、新入生や新しく採用される教職員に対して理念・目的を伝えていくための不断的努力は欠かせない。今後とも真剣な取り組みを継続していく必要がある。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
2021年度文学研究科(専攻毎)改革中期計画書	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学研究科では、大学の理念・目的の実現のため、宗教学仏教学、歴史学、英語圏文化、日本文化の各専攻2名から構成される自己点検・自己評価委員会を平成3年から設置している。委員会では専攻ごとに自己点検を実施して授業科目及び担当教員の見直しを行うとともに、教育理念・目的に沿ったシラバス記載を行っているか否かなどのチェックを実施している。2018年度には基準4・5・6関連で現状の課題を確認し、たとえば3つのポリシーの修正をした。2019度からは、「自己点検・自己評価委員会規定」を明文化し、PDCAサイクルを活用し、これまで以上に機能的に進める体制づくりを確立した。また、2021年度には研究科(専攻)の「人材の養成・教育研究上の目的」を見直し、博士前期課程、後期課程ごとに策定し直した。さらに、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況についても、研究科の質保証として適切となるように修正をほどこした。これらの方針及び手続にもとづいて、文学研究科では内部質保証体制を構築している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「愛知学院大学大学院文学研究科自己点検・自己評価委員会規定」				
文研「愛知学院大学大学院 3つのポリシー」『大学院要項』pp.5-19、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				
文研「2021年度 自己点検・自己評価委員会 議事録」				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既の実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)学位授与方針については、博士前期課程・後期課程ともにディプロマポリシーとして規定しており、課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明記している。大学ホームページ及び『大学院要項』において4つの専攻それぞれの内容について公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研 「愛知学院大学大学院 3つのポリシー」『大学院要項』pp.5-19、 https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				
文研 「愛知学院大学大学院 学位論文審査基準」『大学院要項』pp.38-45、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)教育課程の編成・実施方針は『大学院要項』で明記している。カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示したうえで大学ホームページに掲載している。</p> <p>(2)教育課程の編成・実施方針と学位授与方針に適切な連関をもつよう十分な配慮をし、その内容についてはホームページ等で公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研 「愛知学院大学大学院 3つのポリシー」『大学院要項』pp.5-19、 https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				
文研 「愛知学院大学大学院 学位論文審査基準」『大学院要項』pp.38-45、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
文研 「授業科目・担当教員・履修方法」『大学院要項』pp.51-58、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf				

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3) 個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教育課程の編成・実施方針と教育課程の連関については十分配慮し、整合性は取れている。この点については、文学研究科の自己点検・自己評価委員会及び文学研究科委員会にて定期的に確認している。</p> <p>(2) 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性へは十分な配慮をしている。必修、選択等の授業科目の位置づけについては各専攻内で確認するとともに、研究科全体においても自己点検・自己評価委員会を通じて定期的な見直しの機会をもっている。</p> <p>(3) 個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を十分ふまえて決められている。個々のシラバスは各専攻の会議、及び研究科の自己点検・自己評価委員会においてその適切性を確認している。</p> <p>(4) 大学院担当教員は、コースワーク(講義)とリサーチワーク(演習)を適切に組み合わせた教育への配慮を十分行いつつ実施している。修士課程では、専修科目(講義、演習)、専修科目以外の科目(講義、特殊研究)を1、2年次に適切に配当している。また博士課程では専修科目(研究指導)と選択科目をバランスよく配している。いずれの課程についても『大学院要項』にその履修方法を掲載している。</p> <p>(5) 演習授業及び講義科目とも受講者の規模は数名程度である。少人数教育の利点を生かして、教員は学生の学習の進捗状況を把握し、加えて教員相互で各学生に関する情報を交換しあい指導を行っている。これらの教育活動を通じて、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成を適切に行っている。その過程はポートフォリオに記録している。</p>			
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
文研「授業科目・担当教員・履修方法」『大学院要項』pp.51-58、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf			
文研 ポートフォリオ(個人学習調査票)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 入学者には特修科目の中から専修科目1科目を選定し、2年間でその12単位(講義4・演習8)を必修することで専門性を高めさせている。本研究科全体で開設している特修科目は34科目で、このうち30科目は開講しており、当研究科で学ぶことのできる研究分野のほとんどが網羅されている。なお、授業時間外に必要な学習を促進するため、シラバスに授業時間外の学修について記載している。</p> <p>(2) シラバスの内容については、授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示のすべてを適切に表記することを担当教員に指示している。また毎年度末には、担当者が執筆したシラバスを各専攻の自己点検・自己評価委員が記載内容が適切かどうかをチェックし、修正が必要な場合には担当教員に依頼している。</p> <p>(3) 前期課程においては、専修科目1科目を選択することで、同一指導教員から研究上の関心や個性に合わせた演習指導を2年間受け、それを通して研究を進める上で必要な基礎的知識や態度、課題設定、先行研究の整理、資料の収集・読解法、分析の記述の仕方等を系統的に学ばせるようにしている。それに加えて、コースワークとして前期課程担当教員による講義を大学院生が各自の研究関心に沿って受講し、研究方法に関するヒントや具体的な研究成果を積極的に学ぶことができるよう配慮している。</p> <p>(4) これまでも大学院指導教員の指導のもと、大学院生には研究指導計画に沿った教育を行ってきた。2018年度には研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)を作成し、2019年度より明文化したスケジュールに沿った研究指導を実施している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)」『大学院要項』pp.20-22、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3) 卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4) <修士課程・博士課程> 学位論文審査基準を明示していますか。	A
		(5) 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6) 適切に学位授与を行っていますか。	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 単位認定に関しては、単位制度の趣旨にもとづき適切に行われている。具体的な評価方法は、すべての講義・演習科目のシラバスに評価方法記載欄が設けられており、そこに明記されている。2016年度以降、自己点検・自己評価委員によってその適切性をチェックして、具体的な評価方法が記載されているかを確認している。</p> <p>(2) 各教員は自ら設定し、シラバスに明記した評価方法によって成績判定を行っている。評価基準としては、筆記試験、授業参加度(討論、質疑応答への熱意)、課題の提出、レポート作成、研究報告などである。各教員は、概ねこれら基準の2つ以上を用いて成績評価の判定材料としている。成績の評価方法・評価基準については、各授業担当教員のシラバスの中の「大学院生に対する評価方法」欄に明示している。</p> <p>(3) 修了要件は、大学院要項に明示している。</p> <p>(4) 学位論文審査基準については大学院要項に明示するとともに、大学院生にはその内容について十分な周知をしている。</p> <p>(5) 前期課程・後期課程ともに課程修了の判定において、全成績を文学研究科委員会で開示し、修了審査を経た上で、最終的には全学的な大学院会議での審議、承認を受けて学位授与を決定している。これにより評価における公明性及び適切性を保っている。</p> <p>(6) 前期課程・後期課程ともに成績評価、論文審査を踏まえ、文学研究科委員会での審議、最終的には全学的な大学院会議での審議、承認を受けて学位授与を行っている。</p>			
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
文研「愛知学院大学大学院 学位論文審査基準」『大学院要項』p.38-45、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf			
文研「愛知学院大学大学院学則」『大学院要項』p.112(修了要件)、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-k.pdf			
「愛知学院大学学位規則」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/rules/rules-b.pdf			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学位授与方針に示した学習成果を測定するために、文学研究科ではおもに講義・演習を通じての成績評価、及び論文指導をしてきた。2018年度には、それをより有効に機能させるための指標として、修士論文審査票、学習成果を記録するポートフォリオの活用を追加することを検討した。2019年度より、これらのフォーマットの活用を実施しはじめている。以上をまとめた多角的な指標設定(アセスメント・プランに該当)はつぎのとおりである。入学時(入学試験、面接、推薦書、課題エッセイ、留学生は日本語能力試験証明書)、在学時(GPA、修得単位数、退学率、休学率、ポートフォリオ)、卒業時(学位授与数、修士論文審査票、修了生へのアンケート調査)。</p> <p>(2) 博士課程前期の学生については、指導教員によるきめ細かな指導のもと、学習成果を的確に把握してきた。2019年度の自己点検・自己評価委員会において、その成果の把握を測定する方法についての議論がされ、各専攻による修士論文審査票が作成された。この審査票の開示により、大学院生の論文での重要課題が明確になり、高い学習成果が担保されている。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文研「ポートフォリオ(個人学習調査票、4専攻共通)」				
文研「修士論文審査票(4専攻共通フォーマットひな形)」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 少人数による講義、演習科目において、授業での質疑、レポート・課題へのコメントを通じて、学習成果を測定してきた。また学生の授業アンケートを踏まえて、講義・演習の内容、方法の適切性についての確認をしてきた。2019年度からは「修士論文審査票」における測定基準を明記し、それに基づく年度ごとの点検・評価も実施している。</p> <p>(2) 4専攻から2名ずつ選出された委員による自己点検・自己評価委員会は2、3か月に一度開催している。そこで審議された事項をふまえ、教育課程及びその内容、方法の適切性について改善・向上に向けた取り組みを継続している。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文研「修士論文審査票(4専攻共通フォーマットひな形)」				
文研「2021年度自己点検・自己評価委員会 議事録」(4専攻)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし、たうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
4	宗教学仏教学専攻では、毎年夏と冬に「愛知学院大学宗教文化学科主催大学院研究会」を開催し、2021年2月10日開催で、第8回目を迎えた。発表者は本専攻に所属する博士前期課程・後期課程の大学院生のほか、専任・非常勤の教員である。研究会の情報は、事前に関連する学会に告知し、大学院での学習活動の成果を披露する機会とするとともに、学外の研究者に本専攻に所属する大学院生の研究内容を知ってもらい、修了後のステップにつなげてもらう狙いがある。
4	その他の専攻でも各専攻に所属する大学院生による研究発表会を実施し、そこに大学院生、専任・非常勤の教員が出席して発表を聴講することで、学生に対する分野を超えた学際的な視点からの指導がなされるとともに、教員相互でも学生指導に対する工夫や取り組みについての情報共有が行われている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
「2021年度文学研究科FD研究会報告書」

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に行っている場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学生の受け入れ方針については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーを適切に設定し、大学ホームページにて公表するとともに、『大学院要項』に掲載している。受け入れ方針は各専攻で若干の相違はあるが、学位授与方針や教育実施方針は基本的に共通している。その方針に見合う学力や能力を持つ研究意欲に富んだ学生を受け入れることが基本である。</p> <p>(2) 受け入れ方針の概要として、宗教学仏教学専攻では、建学の精神を身につけ、仏教学・禅学・宗教学の研究に関心を持ち、現代社会に貢献できる人材を求める。歴史学専攻は世界史的視野を持ち教育界・文化機関等で活躍できる人材を求める。英語圏文化専攻は、英語圏あるいは環太平洋地域における英語圏文化を幅広い視野から深く探求し、研究者として自立する意欲のある人、教育者としてあるいは国際的な職業人として社会に貢献する意欲のある人を求める。日本文化専攻は、一般教養と日本文化に関する基礎的な知識を習得し、明確な課題を持ち、かつ日本文化の多面的かつ深い学修に意欲を有する人を求めるものである。以上のような求める学生像とともに、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像についての内容も踏まえたアドミッション・ポリシーを設定している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
<p>文研「愛知学院大学大学院 3つのポリシー」『大学院要項』pp.5-19、https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</p>				
<p>文研 アドミッション・ポリシー【ウェブ】https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</p>				
<p>文研「大学院入試情報」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/examination/graduate/</p>				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) アドミッション・ポリシーにもとづき、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しており、随時、それらが適切であることを点検している。具体的には、学生の募集は本学大学院全体の入学者選抜試験制度に基づいて実施しており、募集方法は、大学院ホームページ及び『募集要項』などの印刷物、公共交通機関等における広告、年4回実施する進学者相談会、学部ゼミ生に対する指導教員の案内を中心として展開している。</p> <p>(2) 大学院委員会において合格基準の確認・見直しを行い、入学試験実施後に文学研究科委員会において判定を行い、最終的には大学院委員会で研究科委員会の判定内容を審議している。</p> <p>(3) 入試は推薦・特別・社会人・一般入試の4種類を設けて春季及び秋季に行い、(2)で述べた適切な体制のもと、公正な入学者選抜を実施している。</p> <p>(4) 入学を希望する者への合理的な配慮は不可欠なものと理解し、公正な入学選抜を実施している。具体的には、社会人の入学者選抜における外国語免除の入試の実施、傷病・障害等の申し出があった際の配慮、留学生の入学者選抜における日本語能力の客観的な審査等を行っている。その結果については、文学研究科委員会での審議、承認を経て、全学的な大学院委員会に報告し、最終的な承認を得ている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「大学院入試情報」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/examination/graduate/				
文研『愛知学院大学 大学院 学生募集要項』				
「外国人留学生の入学に関する規程」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/rules/rules-h.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	C
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 文学研究科の入学定員は、博士前期課程では、専攻10名ずつの合計40名、収容定員は4専攻1、2年生全体で80名、後期課程は4専攻合計3学年全体で57名である。2021年5月1日時点の在籍大学院生数は前期課程では、1・2年合計で18名(収容定員充足率は22.5%)、後期課程では、3年合計で2名(充足率3.5%)である。前期課程においては堅調な学生数を保持している専攻がある一方で、在籍者ゼロのところもあり、専攻間でかなりのばらつきがあるのが実情である。後期課程は4専攻すべてにおいて低迷している。収容定員に対する在籍学生数の未充足状況の改善に関しては、入学希望者の確保のために学部学生に対する進学勧誘を行うとともに、社会人聴講生等に対しても入学を勧める試みを行っている。また、特に入学者数の低迷が続いている英語圏文化、日本文化専攻では専攻内で今後の方策について議論を行っており、具体的な対策として、9月に学部4年生に向けた(全学での説明会とは別に)個別の大学院説明会を開催したり、日本文化専攻では学術専門誌に大学院案内を掲載したりして、入学者の増加に努めている。ただし、文学研究科全体として入学定員の削減も検討する用意があるが、文学部との調整も必要であり、今後の課題とされている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文研「2021年度 大学院入学定員充足率、収容定員充足率」 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2021.pdf				
文研「大学院進学説明会案内文」(英語圏文化専攻 2部、日本文化専攻)				
文研「愛知学院大学日本文化専攻大学院案内」『日本語学』2018.7 臨時増刊号				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 文学研究科の自己点検・自己評価委員会において、学生の受け入れの適切性をアドミッション・ポリシーの適切性、入学定員及び収容定員の適切性等の観点から点検している。ただし、文学研究科への進学率は複数の専攻で低迷状態が続いているため、学生の収容定員の削減も視野に入れながら、状況を改善する方法を検討している。もともと、宗教学仏教学専攻及び歴史学専攻では一定の割合で進学する学生がいる。専攻によるばらつきがあり、文学研究科全体としてどのように対応するかが現在の課題である。 (2) 英語圏文化専攻、日本文化専攻は入学者の受け入れにおいて低迷状態が続いている。両専攻では、各専攻内の教員による話し合いをおこない、方策の検討が行われている。具体的には、全学的な進学説明会とともに、専攻による個別の説明会を開催すること、また就職とは別に大学院進学を選択肢のあることを就職活動に入る前の大学3年生に向けて積極的に伝えていくなどの具体案が出されており、毎年度秋学期には進学説明会を開催している。このような形で、学生の受け入れの適切性については点検・評価の結果にもとづいて、改善・向上に向けた取り組みを行っている。				
【根拠資料名】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				

根拠資料名
大学院生募集の説明会チラシ(英語圏文化専攻、日本文化専攻)

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
③	以前は、教職を希望する学生が高度な知識を得るために大学院進学を志す場合が多かった。しかし、近年の家庭の厳しい経済事情を反映して、大学院進学に魅力を感じても就職を優先せざるを得ない者が多い。進学希望者に対する経済的支援の道を充実させる方法を検討しなければならない。また、博士後期課程に在籍する学生に関してでは、博士論文を作成し、博士号を取得した後のキャリアに関する指導や手助けが十分ではないとの指摘もある。今後は、大学の研究者だけでなく、多様なキャリアの選択肢を提供し、また、次のステップにつなげていけるよう指導することが必要である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
③	近年減少気味である入学希望者数を回復させるためにも、魅力ある授業科目と担当者を充当する必要がある。その対策の一環として、2016年度より若手中堅教員の講義ないし演習指導担当を拡充し、進学意欲を高める体制を整備している。今後とも、教員の年齢構成、男女比や授業内容についての改善を継続させていくとともに、社会的ニーズに対応した教育課程の見直しや点検を継続的に進めていく方針である。
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
2021年度文学研究科(専攻毎)改革中期計画書	

5. 「基準5」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	B

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学研究科では2019年度に、「文学研究科 教員組織の編制方針」を策定した。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文学研究科 教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 研究科教員数は設置基準が求める定数を満たすように、自己点検・自己評価委員会および文学研究科委員会で検討・確認する作業を繰り返しており、適切に管理されている。前期課程の講義、演習指導、後期課程の研究特講、研究指導という授業科目の性格に応じて4専攻共通の担当教員の資格基準を設けており、4専攻が教員の授業担当人事における資格審査の客観性を保つのに役立っている。教員資質の向上については、人事の都度、博士学位の取得や研究業績の積み上げを教員に要求している。教育方法の向上については、学生への授業アンケートの実施、結果の提示を通して授業改善を図っている。FDの組織的实施については、2017年度以降、研究科独自の研修会を定期的に開催している。</p> <p>(2) 教員組織の編制方針にもとづき、各専攻に欠員が生じた場合には、分野を同じくする専任教員を募集・採用することによって分野ごとのバランスを維持するとともに、その時点における各専攻内の教員の年齢、性別のバランスも考慮して人選を行っている。また、現有の専任教員に関しては、適宜昇任を行うことで、職位と年齢のバランスも適切に保っている。</p>				

(3) 2021年5月時点での、各専攻の自己点検・自己評価委員が取りまとめた教員・教員組織に関する現状と課題はつぎのとおりである。

宗教学仏教学専攻において、博士前期課程の演習指導教員の年齢構成は、40代が2人、50代が1人、60代が2人、70代が1人である。博士前期課程の講義担当者は、男女比で見ると、5:1、博士後期課程の研究指導では4人も男性教員であり、男女比に偏りがある。専攻は、①仏教学仏教史学研究、②禅学禅思想史学研究、③宗教学宗教史学研究の3分野に分れている。博士前期課程において①に2人、②に1人、③に3人の教員、博士後期課程において①1人、②に1人、③に3人が配置されている。各教員に均等にコマが割りふられており、負担の偏りはない。学部の宗教文化学科には専任が8人、うち4人が宗教学専攻で、仏教学2人、禅学2人である。禅学担当の教員を大学院においても補充していく必要がある。

歴史学専攻においては、研究科専任教員は11名であり、年齢構成では70代1名、60代5名、50代4名、40代1名である。40代教員が2020年度より1名減少したが、客員教授が2021年度を以て退職し、後任に新たに40代の准教授の着任が決まっているため、2022年度は再び2名となり、年齢別の配置バランスはほぼとれている。専任教員11名中、客員教授1名、教授8名、准教授2名で、女性教員は3名である。前期課程担当者は11名、後期課程(研究指導)担当者は8名(内、女性1名)となっている。専任教員の持ちコマ数(開講された科目数)は、1コマが3名、2コマが6名、3コマが1名である(1名は在外研修のため2021年度の授業担当はない)。課題として、学則で規定された授業科目を出来る限り開講することが進学希望者にとって望ましいため、非開講科目が多くならないよう、担当教員を配置しておく必要がある。また、後期課程における女性担当者数の拡大については、文学研究科における授業担当資格をクリアでき次第、改善可能である。なお、今後数年のうちに60代後半の教員が順次退職していくことになり、それに伴う後任人事において年齢構成や男女構成比の均等化の問題を配慮していくことになる。

英語圏文化において、博士前期課程の教員組織の年齢構成は、40代3名、50代3名、60代4名、博士後期課程の方は、50代2名、60代3名となっている(いずれも前年度と同数)。前期、後期課程どちらも、概ね良いバランスと考えられる。男女比については、博士前期課程はちょうど男女半々(5:5)で理想的な状態であるが、後期課程では男性3:女性2であり、こちらは前年度の4:1より改善された。分野別の人事配置をみると、①英語学・英語教育学研究分野4名、②アメリカ研究分野2名、③イギリス研究分野2名、④広域英語圏研究分野1名、⑤共通領域研究分野1名となっている。コアである英語・英語教育学は充実しているが、広域英語圏担当にもう1名担当者が増えることが望ましいといえる。コマの担当については各教員の割り振りは均等であり、負担の不均衡はない。全体として、40代教員の博士前期演習担当者および博士後期担当者が順調に増えることが期待される。

日本文化専攻では、年齢構成について、前期課程の講義担当者は、30代1名、40代1名、50代4名、60代3名である。若手教員の担当がやや薄いものの、各年代の教員がおり、特に問題のない状況である。男女比について、前期課程の講義担当者は、5:4、後期課程の研究指導担当者は2:2である。男女どちらかに偏ることなく、問題のない状況である。日本文化専攻は、①日本語日本文学研究分野、②日本文化研究分野、③各種領域研究分野の3分野から構成されているが、各分野につき、①3名②2名、③4名の教員が配置され均衡が取れている。問題のない状況である。日本文化専攻は、前期課程、後期課程とも一人の教員が複数科目を担当することはなく、原則的に1教員1科目の担当割り当てである。前期課程担当者と前期・後期課程担当者では後者がコマ増とはなるが、基本的に負担は均等であり問題のない状況である。なお、令和4年度からは、30代の女性教員1名に日本文化研究分野の1科目を担当してもらうことが決定しており、年齢、性別バランスの更なる改善が見込まれる。それ以外の項目についても、今のところ状況は良好で、課題は存しない。

(4)

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

文研「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」

文研「専任教員年齢構成」

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教員の募集・採用、また准教授・専任講師を教授に昇格させることは学部の審議事項であり、文学研究科独自での教員の募集・採用は行っていない。しかしながら、研究科における講義科目の担当及び博士前期課程の演習・博士後期課程の研究指導の担当になる時には、「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」に基づいて教育歴・研究業績審査を行っている。それに加えて、文学研究科では「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」を定め、前期課程演習担当者は准教授及び教授とし、准教授での演習担当者は、博士学位を取得し、各専攻委員によって適切と認められる者と規定し、後期課程研究指導の担当者は、教授で博士学位を取得し、前期課程で演習担当2年以上の者であることを基本的条件としている。</p> <p>(2) 文学研究科の研究領域の分野は文学部のカリキュラムの構成とも密接に連動していて、新しい教員を採用する場合には、欠員が出た分野を補充するという形をとることを基本としている。研究科の授業科目担当人事は、大学院委員会委員及び研究科自己点検・自己評価委員会における予備審査を経たのち、研究科委員会に提案、審査報告の承認という厳格な手続きを経たうえで決定している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」				
文研「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 研究科の授業担当教員は学部の授業も担当している。その関係上、学部で実施されているFD研究会でのより良い授業実施のための問題検討・提案は、大学院教育における資質向上の対策としても機能している。これに加え、大学院独自のFD研究会は、2021年度には各専攻毎に年間1回以上実施した。</p> <p>(2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等は、年度末に刊行される『愛知学院大学文学部紀要』に掲載されている。教員の教育活動、研究活動、社会活動等に対する検証は、授業担当人事(前期課程講義・演習及び後期課程研究指導)の提案時に行っており、これを満たすことなく、教員の新たな担当人事を起こすことはできない。また、毎年度末に大学院生に対して授業アンケートを実施し、その結果を各授業担当教員に提示して、より良い教育実施のための努力を促している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部『愛知学院大学文学部紀要』ISSN:02858940				
2021年度文学研究科FD研究会報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教員組織は『大学院要項』に示され担当資格が学則に示されているが、文学研究科では学則に準拠しつつも、研究科を構成する教員の資格を准教授以上とし、前期課程演習指導を准教授が担当する場合は学位を有する者としている。また、後期課程研究指導担当者は教授で学位を有し、前期課程において2年以上の演習指導を担当し、かつ専門分野における単著を刊行している者と厳格に申し合わせている。このことは「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」に定めている。教員組織の適切性(教員数、配置、昇任等)については、上記の基準に照らしながら、文学研究科自己点検・自己評価委員会において点検・評価し、必要な改善点については文学研究科委員会にて審議のうえ実施する体制となっている。</p> <p>(2) 研究科において前期課程の講義担当、演習担当及び後期課程の研究指導担当などの人事の都度、教員に対して学位の取得、新たな研究論文・著書の刊行などの業績の積み上げを求めている。また、前期課程演習指導及び後期課程研究指導担当人事では、学位の取得、単著の刊行、授業担当実績に関する基準を設けて審査・決定しており、これが教員の資質向上の努力につながっている。文学研究科は異なる性格を持つ4専攻から構成されているために、教員の任用基準や研究業績の評価方法などが他専攻の教員には理解しづらいことがある。上述の研究科全専攻による任用基準の形式的統一に関する申し合わせは、教員の資格審査における専攻別の評価の相違を低減することに効果的に機能している。そのうえで、教員組織の適切性(教員数、配置、昇任等)の点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」				
文研「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」				
文研「2021年度自己点検・自己評価委員会 議事録」(4専攻)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特になし場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②	研究科の教育カリキュラムは、学部のカリキュラムと呼応し、分野ごとのまとまりにおいて実施している。研究科担当の専任教員は、必ず専攻のなかにある一つの研究領域に属しているため、分野が一つのユニットとしてのまとまりを有して、学部と大学院の双方の教育を担っている。こうした特徴によって、学部学生が大学院進学を目指す場合、学部在籍時と同じ指導教員に大学院においても指導を受け、発展的研究を進めることができるというメリットを持っている。基本的には、大学院教育と学部教育は一体化しているといえる。学部での新人事に際しては、分野の専門性を考慮して行なっているため、大学院になって担当教員の適合性が問題化することは考えられない。本研究科にかかわる諸問題は、まず自己点検・自己評価委員会で協議し、解決をはかっている。さらに自己点検・自己評価委員会は、授業内容の確認と実施状況などを把握するため、毎年、授業アンケートを実施し、大学評価のための自己評価を実施している。
②	学部・研究科における教育のさらなる連続性の向上のために、自己点検・自己評価委員会の提案に基づいて、学部・研究科間での定期的な人事や教育等についての情報交換を目的とした文学部長および研究科長を中心とした協議会を適宜開催することを決定し、これを実行している。
④	改善のため、自己点検・自己評価委員会による提案に基づき、2017年度から研究科教員全員が参加するFD研究会や研究報告会などを開催し、それらを通して授業改善・研究活動について積極的な研修を行っている。
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	

根拠資料名
2021年度文学研究科FD研究会報告書

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に行っている場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	B
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 本学ではグローバル社会に対応した大学教育と地域連携を重視した大学教育を2本立てで進めており、文学研究科も大学全体の目的に沿った政策を推進していかなければならない。文学研究科では各専攻がその特性に応じてグローバル社会ないし地域連携を重視した研究教育を行っている。しかし、文学研究科4専攻全体としてこれら2つの政策を有機的に統合していくための取り組みは未だ改善の途上である。また、2021年度はコロナ感染症対策のため、積極的な取り組みができなかったことも確かである。</p> <p>(2) 2017年度以降、宗教学仏教学専攻による臨床宗教師養成講座、歴史学専攻による土曜セミナー、日本文化専攻による日本文化に関わる有識者を招請しての公開講演会の実施などの活動を活発に展開しており、東海地域の人々の関心を引き寄せている。ただし、2021年度はコロナ感染症対策のため、臨床宗教師養成講座の実施は見送った。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文研「臨床宗教師養成講座」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/graduate/letters/religion/index.html				
文研「2021年度 愛知学院大学文学部歴史学科土曜セミナー」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/news/file/2021081901.pdf				
日本文化学科公開講演会の案内書、 https://www.agu.ac.jp/news/file/2021102702.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学研究科における自己点検・自己評価委員会では大学院教育全般に関わる点検・評価をしている。研究科の社会連携・社会貢献についての適切性についても確認している。また、各教員による社会連携・社会貢献については、文学部紀要の中の「研究活動」の項目に報告されている。</p> <p>(2) 専攻ごとでの取り組みとともに、将来的には、研究科全体の取り組みとして、グローバル社会および地域連携に対応する教育を重視して研究教育を推進し、さらに充実していく必要がある。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				

根拠資料名
愛知学院大学文学会『愛知学院大学文学部紀要』ISSN:02858940
2021年度文学研究科(専攻毎)改革中期計画書

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし たうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②	宗教学仏教学専攻は、本学の設立母体である曹洞宗の教師養成機関、並びに教化機関としての役割を担っている。それにもとづき、同専攻を修了した者は無試験で曹洞宗一等教師補に補任されることが曹洞宗の教師分限規程により定められている。この役割を担い得るのは本学大学院の宗教学仏教学専攻のほかには駒澤大学大学院仏教学専攻のみであり、曹洞宗門並びにわが国仏教界から大きな期待を寄せられている。
②	宗教学仏教学専攻では、本学の建学の精神及び仏教精神に基づいた教育目的の実現の一環として「臨床宗教師養成講座」を2017年4月から開講して近年の人生終末期の生き方に関する社会的関心への高まりに応えている。本専攻の専任教員3名のほか、学内他学部・他学科より6名、学外から6名、計15名の教員が担当している。
②	歴史学専攻においては、歴史学科教員も含めて2015年度から秋に土曜セミナーを開催し、研究科の教育活動を紹介し、教員それぞれの研究成果の一端を公開し、生涯教育の実践に努力している。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
文研「臨床宗教師養成講座」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/graduate/letters/religion/index.html	
文研「2021年度 愛知学院大学文学部歴史学科土曜セミナー」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/news/file/2021081901.pdf	
曹洞宗僧侶教師分限規程	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、 記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②	定年退職、子育ての終わった人々、また人生途上で関心事について深く探求しようと思う人々の中には、宗教・仏教・歴史・文学を研究してみたいという者は少なくない。そのために文学研究科の理念・目的を参照して本研究科への正規生として、あるいは聴講生として大学院に学びの場を求めてくる傾向は、高齢化社会を迎え、ますます増加しているように思われる。地域の生涯教育の実践の場として本研究科が機能する面は十分にあるし、本研究科の理念・目的を、地元との交流を通してさらに周知化して学びのための社会的ニーズに応えていく方針である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②	現在実施されている地域貢献の活動を一層拡充するために、自己点検・自己評価委員会での活発な議論を通じて検討する方針である。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
B